

第 1 3 7 7 回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 平成 2 9 年 7 月 2 0 日 木曜日
開会 1 0 時 0 0 分 閉会 1 1 時 3 0 分

2 場 所 京都市役所内 教育委員室

3 出席者	教 育 長	在田 正秀
	委 員	星川 茂一
	委 員	奥野 史子
	委 員	鈴木 晶子
	委 員	高乗 秀明
	委 員	笹岡 隆甫

4 欠席者 なし

5 傍聴者 5 人

6 議事の概要

(1) 開会

1 0 時 0 0 分，教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第 1 3 7 6 回京都市教育委員会会議の会議録について，教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案 2 件

イ 議決事項

議第 5 号 平成 3 0 年度に京都市立高等学校において使用する教科書の採択について

(事務局説明 辰巳 学校指導課担当課長)

まず，これまでの経過についてであるが，5 月 1 1 日に教育委員会で「基本方針」を議決後，基本方針に基づき「選定方針」を決定し，5 月 2 2 日に教科書選定委員会

へ、教科書選定について諮問した。

5月22日と7月12日に選定委員会を、さらに、各教科の調査研究委員会16部会43回の会議が行われるなど、本市立高校の実情に即した最も適切な教科書について、熱心かつ慎重な調査審議が行われた。

また、開かれた教科書採択の一環として、教科書展示会を、6月2日から7月5日まで、京都市総合教育センターと右京中央図書館で実施した。閲覧者数は、総合教育センターでは72名、右京中央図書館では57名、高等学校使用教科書に関する意見数は1件寄せられた。

こうしたプロセスを経て、選定教科書一覧表が教育長に答申された。

その答申に基づき、本日、平成30年度使用の教科書の採択について、議案を提出させていただいたところである。議決の後、京都市立高等学校の管理運営に関する規則に基づき、採択された教科書の中から、各学校長が来年度使用する教科書を決定する予定になっている。なお、高等学校の教科書については、毎年採択を行っている。

次に、「2 学習指導要領と教科書採択について」であるが、平成30年度は、第1学年から第4学年のすべての教科で、現行の学習指導要領に基づいて編集された教科書を使用するため、「平成30年度使用高等学校用教科書目録」の第1部に登載されている教科書のうちから採択を行う。

次に、「3 選定教科書について」。今年度選定した教科書は、文部科学省検定済教科書及び文部科学省著作教科書の中から、本市に関係する教科・科目に係る教科書775点のうち、14教科247点となる。各科目における採択数は、表のとおり。

なお、昨年度に平成29年度使用教科書として採択した教科書で、改訂版の発行等により、「平成30年度使用高等学校用教科書目録」に登載されなくなったものについても、継続して使用する必要があると認められる場合に、当該教科書をあらためて選定している。今回は、採択一覧表（案）の書名欄に「*（アスタリスク）」をつけている9教科49点が該当する。

次に、各教科の選定の観点及び理由についてである。5月11日に議決いただいた「基本方針」「選定の観点」に基づき、各教科の選定の観点及び理由を定め、教科書を選定した。

まず、国語科については、論理的思考力を育成し、日本語や日本文化に対する関心が高まるよう配慮がされていることなどの観点から、多様な教材がバランスよく配列されているもの、「話す・聞く」「書く」「読む」活動を通じて、思考力が育成され、日本語や日本文化に対する関心が高まるよう配慮がされているものなど、21点を選定した。

地理歴史科については、生徒の関心を喚起し、内発的な動機づけによる主体的な学習へ進む構成になっているかなどの観点から、言葉が厳密に運用されているだけでなく、最新の研究成果などを反映しており、現代社会に応用できる知識を獲得できるものや、具体的な説明・事例や写真・図表等が豊富で、獲得した知識や技能を活用できる

構成となっているものなど、22点を選定した。

公民科については、現代世界に生きる主体として、必要な資質を養い、そのために必要な探究活動の契機となる構成となっていることなどに留意して13点を選定した。

数学科については、数学的活動や数学の楽しさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりできるように工夫・配慮がされていること等の観点から、簡潔にまとめであり、重要な問題がバランスよく配列されているものなど、26点を選定した。

理科については、学習内容を実生活や人間社会と関連させて学習するための工夫・配慮がされているかなどの観点から、問題解決的な観察・実験が多く取り上げられており、観察・実験の考察等を通して探究能力の向上を図る工夫がされているものなど、37点を選定した。

保健体育科については、健康の保持増進のため運動と安全に関する興味・関心を高めるよう工夫・配慮がされているかなどの観点から、2点を選定した。

芸術科は音楽・美術・工芸・書道の4科目になるが、創作意欲を高める工夫や、古典や伝統文化を継承して、発展的な学習につながるよう考慮がされているかなどの観点から、重要なポイントがバランスよく配列されていることに留意して21点選定した。

外国語科については、生徒の活発な言語活動を通じて言語能力の向上を図るための工夫がされていることなどの観点から、「読む」「書く」「聞く」「話す」4技能を総合的に伸長させる構成であるものや、高校生に適した幅広い題材が扱われており、生徒の視野や世界観を広げるために適しているものなどを、38点選定した。

家庭科においては、人の一生を見通しながら、自立して生活する能力や異なる世代とかかわり、他者と協働しながら持続可能な社会を築いていくことができるように、キャリア教育の充実にもつながる配慮がされているものなど、専門教育に関する教科書3点を含む10点を選定した。

情報科においては、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方について習得し、それらを活用して考えたり判断したりできるように工夫・配慮されていることなどの観点から、専門教育に関する教科書1点を含む9点を選定した。

工業科では、機械や電気、建築等の各分野に関する教科書が含まれている。工業に関する課題の解決を図る学習を通して、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる学習内容として配慮がされていることなどの観点から、工業が現代社会に果たす役割や責務についてわかりやすく習得できるものなど、計43点を選定した。

商業科においては、商業の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付けることができ、身近な商業の諸課題について解説されており、その解決に向けての探究意識の向上や発展的な学習に繋げることができるよう工夫がされているものなど、5点を選定した。

以上、14教科、247点の教科書を選定したので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

(委員からの主な意見)

【星川委員】 教科としての英語教育が小学校でも導入されるにあたり、小学校、中学校、高校と系統立てて学習する必要がある。そうした観点から中学校の教科書との関連で、調査・研究の際に配慮していることはあるか。

【事務局】 調査・研究にあたり、中学校の教科書についても把握し、そこから発展させていけるような内容の教科書を選定している。

【星川委員】 生徒の習熟度に差があるとは思いますが、それは各校で生徒に合わせているのか。

【事務局】 各校で生徒の実態に応じて、教科書を選んでいる。

(議決)

教育長が、議第5号「平成30年度に京都市立高等学校において使用する教科書の採択について」、各委員「異議なし」を確認、議決。

議第6号 平成30年度に京都市立小・中学校育成学級及び総合支援学校において使用する教科書の採択について

(事務局説明 伊藤 総合育成支援課長、柴垣 総合育成支援課首席指導主事)

平成30年度に京都市立小・中学校育成学級及び総合支援学校において使用する教科書の採択について、ご審議いただきたい。

説明資料「1 教科書選定委員会日程」のとおり、平成30年度に小・中学校育成学級及び総合支援学校で使用する教科書については、5月11日の教科書採択に関わる基本方針の議決を受け、教科書選定委員会を設置し、第1回選定委員会を5月19日に開催した。選定委員会は、学識経験者、保護者代表、教員、教育委員会事務局から、委員・専門委員あわせて21人で構成し、小学校育成学級・総合支援学校小学部、中学校育成学級・総合支援学校中学部、総合支援学校高等部の3グループに分かれて調査研究を行った。6月27日に第2回選定委員会を開催し、採択教科書案について委員から意見をいただき、それを受けて、さらに調査研究を進め、7月11日の第3回選定委員会の最終審議を経て答申を受けた。

「2 平成30年度に小・中学校育成学級、総合支援学校において使用する教科書」の表は、それぞれの学校・学部において使用する教科書について示したものである。小学校育成学級及び総合支援学校小学部においては、「小学校で使用する検定教科書」に加え、「小学校育成学級及び総合支援学校小学部用に選定する文部科学省著作教科書及び一般図書」を使用する教科書としている。中学校育成学級及び総合支援学校中学部においては、「小・中学校で使用する検定教科書」に加え、「小学校育成学級・総合支援

学校小学部用及び中学校育成学級・総合支援学校中学部用に選定する文部科学省著作教科書及び一般図書」を使用する教科書としている。また、高等部については、「小・中・高等学校で使用する検定教科書」に加え、「小・中学校育成学級及び総合支援学校小・中学部用に選定する文部科学省著作教科書及び一般図書」及び「総合支援学校高等部用に選定する一般図書・検定教科書」を使用する教科書としている。今回ご審議いただきたいのは、太枠内の文部科学省著作検定教科書及び一般図書についてである。

「3 選定冊数」についてであるが、文部科学省著作教科書は今年度と同様に小学校育成学級・総合支援学校小学部用に10点、中学校育成学級・総合支援学校中学部用に3点の合計13点、検定教科書は総合支援学校高等部用として検定教科書を5点選定した。一般図書については、小学校育成学級及び総合支援学校小学部用に365点、中学校育成学級及び総合支援学校中学部用に250点、総合支援学校高等部用に340点の合計955点を選定した。小学校育成学級及び小学部については、来年度から始まる「特別の教科 道徳」用として新たに31点を選定している。全体として、昨年度採択した856点から、新たに選定したもの137点、供給不能等により38点、差し引き99点の増となり、これらの図書は、「4 教科書採択に関わる基本方針」（5月11日教育委員会議第3号で議決済）及びそれに基づいた「5 平成30年度に京都市立小・中学校育成学級及び総合支援学校において使用する教科書の選定の方針に沿って選定された図書である。

「6 教科書展示会について」であるが、6月2日から7月5日まで京都市総合教育センターと京都市右京中央図書館の2か所で教科書展示会を実施した。閲覧者数については、設置の名簿に記載があった数のみ計上している。育成学級及び総合支援学校への意見書については2通あり、「育成学級・総合支援学校で使用する教科書の展示が少なかった」「わが子の学校がどの教科書を使っているかわかればよかった」という趣旨のご意見を頂戴した。選定教科書については、引き続き、総合教育センター内のカリキュラム開発支援センターに配架を行う予定をしており、今後も保護者や市民に分かりやすい展示となるよう努めてまいる。

各種目の選定の観点と選定の理由についてであるが、小学校育成学級及び総合支援学校小学部については、身近な生活経験をより深く認識できる教材であるか、遊びや体験を通して興味関心を広げ、日常生活の場面へとつなげていける教材であるか、などを視点に選定されている。中学校育成学級及び総合支援学校中学部については、各教科に興味関心を持たせ、学習意欲を高めることを基本に、視覚的・聴覚的な理解のしやすさを意識して選定されている。高等部については、情報モラルなどの喫緊の課題を扱う教材等も盛り込み、また、職業学科向けの教材を充実させるなど、個々の課題に対応できるよう選定されている。保護者代表の委員からも、生徒に身近で具体的な題材をテーマとした本を提案いただいた。

選定図書の具体例をお示しする。各選定図書は、発達段階に応じて選べるように、A「話しことばも書きことばも獲得していない発達の段階」、B「話しことばは獲得して

いるが、書きことばを獲得していない発達の段階」、C「話しことばも書きことばも獲得している発達の段階」の3段階を設定している。

「しりとりしましょ！ たべものあいうえお」（小・国語）は、見開き2ページに、ひらがな50音から始まる食べ物のしりとりが展開されている。メロディーが付いており、歌いながらしりとりを楽しむこともできる。児童にとって身近なものばかりで、親しみやすく、ひらがなの基礎やものの名前を学習できる。

「こどもマナーとけいご 絵じてん」（小・道徳）は、挨拶や規則正しい生活、学校生活や公共の場でのルールやマナー等、子どもの生活に沿ったテーマが場面ごとに、イラストと文で紹介されており、子どもの実態に応じて、必要なテーマや場面を選んで使用することができる、学校生活や家庭生活の場面と結びつけ、学習したことをすぐに実践できるようにすると効果的である。

「世界がみえる地図の絵本」（中・社会）は、大陸や国、島別に見開き一面に描かれた見やすい地図で、各国や地方の有名な史跡や建造物、特産品、動物などを丁寧なイラストで示している。各国のデータ等も掲載されており、比較もしやすく、生徒の興味に応じて、深く学習することもできる。

「覚えておきたい！暮らしの基本101」（高・家政）は、調理、食品の保存、洗濯、掃除、冠婚葬祭時のマナー、防災などの実用に向けた事柄が多く取り上げられており、写真やイラストを見て、文章を読んで、生徒がわかりやすい教材である。指導にあたっては、各生徒の目標に合わせて、取捨選択していく必要がある。

（委員からの主な意見）

【鈴木委員】 多様な観点から、良い本を選定いただいた。これらは各校の図書館に入るのか。

【事務局】 各校にすべて置くというわけではなく、各校がこの中から子どもたちに給与する図書を選んでいく。

【鈴木委員】 暮らしのルール、暮らしの知恵、暮らしに根差して教えていくという観点を見事にカバーしており、普通学級にも活用されたい図書ばかりである。

【星川委員】 普通学級の学級文庫や学校図書館の選書の際の貴重な資料になる。普通学級でも興味を持ってほしいのでぜひ周知してほしい。

【在田教育長】 一般図書の情報共有も検討してもらいたい。

【鈴木委員】 これから各学校で子どもたちが使用する教科書を選定していくということだが、実際にはどれくらい使用されるものか？

【事務局】 全体で9割程度が実際に使用されている。

【奥野委員】 ひとりひとり違う教科書を使用することだが、子どもたちがどの教科書を使用するか、保護者は知っているのか。

【事務局】 年度初めの家庭訪問や個人懇談などで伝えている。

(議決)

教育長が、議第6号「平成30年度に京都市立小・中学校育成学級及び総合支援学校において使用する教科書の採択について」、各委員「異議なし」を確認、議決。

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

7月1日～平成30年度京都市立学校教員採用選考試験 第1次試験

7月1日 PTA感謝の集い

7月1日～7月9日 銅駝美術工芸高校 第1回所蔵作品展

7月10日 「京都はぐくみネットワーク」発足式

7月15日 青少年科学センター・企業展示特別展

「はかるとわかる 分析の科学」オープニングセレモニー

○事務局から当面の日程について説明

(5) 閉会

11時30分、教育長が閉会を宣告。

署 名 教育長